

トピックス 「第6回日仏鉄道共同研究セミナー」を開催しました

鉄道総研とフランス国鉄(以下、SNCF)は、2014年9月29日～10月1日の3日間にわたり、フランス・パリにて「第6回日仏鉄道共同研究セミナー」を開催しました。

鉄道総研とSNCFは、1995年に共同研究等に関する協定を結んで以来、各技術分野における共同研究を進めています。今回で6回目となるセミナーは、フランス・パリのベルシー地区にあるSNCFの研究革新局(局長:Eric CONTI氏)において開催され、鉄道総研からは理事の高井秀之を含め15名が参加しました。

本セミナーでは、共同研究テーマに関する報告に加えて研究開発マネジメントに関する意見交換を行い、今後、日仏双方において、自然災害対策などの安全性向上、エネルギー利用の効率化、メンテナンスの省力化、ビッグデータの活用法について重点的に検討することを確認しました。

次回の「第7回日仏鉄道共同研究セミナー」は、2016年に日本で開催される予定です。



第6回日仏鉄道共同研究セミナーの様子

トピックス 「第2回バラスト軌道のメンテナンスに関する日英ワークショップ」を開催しました

2014年10月16日に、英国スコットランド・エディンバラにおいて、「第2回バラスト軌道のメンテナンスに関する日英ワークショップ」が開催されました。

日本と英国は、どちらも大陸に比べて地盤が軟弱で、バラスト軌道の維持管理上の問題についても共通する課題が多くあります。そこで、日本と英国におけるバラスト軌道の研究者が定期的に情報交換を行い、主にバラスト軌道に関する基礎研究分野を活性化させるとともに、保守効率化に向けた日英でのプロジェクトテーマの可能性を模索するため、2013年11月に鉄道総研において第1回の日英ワークショップが開催されました。

第2回となる今回のワークショップは、英国エディンバラのHeriot-Watt University(ヘリオット・ワット大学)において開催され、英国でのバラスト軌道の研究を行っている各大学の研究者が集結し、日本からは大学研究者3名、JR関係者3名、鉄道総研4名が参加しました。今回の基調講演は日本が担当することになり、以下の2件の講演を行いました。

【基調講演】

- ・鉄道総研における最近のバラスト軌道に関する研究(鉄道総研軌道技術研究部 桃谷尚嗣研究室長)
- ・寒冷地の交通施設に使用する粒状材料の要素実験(北海道大学 石川達也教授)

さらに、12件の一般講演が日英の研究者により行われ、日英におけるバラスト軌道の研究に対して意見交換が行われました。

今回のワークショップは、2015年に日本で開催される予定です。



第2回バラスト軌道日英ワークショップの様子